

令和2年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(仙北市)

1 市の概要(人口 25,642 人)※令和3年1月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和2年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	5園	3か所	0園	0園	6校

その他：へき地保育所 児童館 小規模保育 事業所内2 家庭的保育事業1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 臨時(保育補助)としての期間が長かった職員や、有資格ながら長年他業務について人事異動で初めて保育現場に来た職員もあり、各年齢層での経験にばらつきがある。若手への指導に自信が持てずいたり、子どもの内面を読み取ることや、指導案の書き方に悩んでいたりする保育者がいる。中堅保育者の育成、保育者の質の向上に向けて、園内研修の充実が課題である。</p> <p>(2) 市内各園では、園児、児童の交流や双方での保育、授業を参観することも年間計画を作成し取り組んでいる。しかし、参観についての振り返りの協議参加やスタートカリキュラムの作成等、園と隣接している小学校区によって取り組みの状況に差がある。幼小の円滑な接続を考えた時、教育委員会と連携した相互理解のための体制作りが課題である。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>社会や保育の変革に対応し、教育・保育の質の向上、教職員の資質向上、園内リーダーの養成等は重要である。そのためには教育・保育アドバイザーを継続配置することにより、市としての幼児教育推進体制を機能させ、本市の抱える教育課題の解決に向けて一層の指導や支援をしていく。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実(幼小接続の連携体制の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育総務課(小学校教育指導担当課)と子育て推進課(就学前教育保育担当課)との連携体制の構築 <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援(園内研修、保育実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て推進課に教育・保育アドバイザーを配置し、定期的な就学前施設訪問による園内研修支援 <p>(3) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前施設の課題に応じた研修会や公開保育研究会の実施 <p>(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修(取組)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼小連携に関する研修会、教職員の体験事業の実施、幼保小自主事業の支援 <p>(5) 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加 南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーと情報共有 	
年度別重点	
令和元年度	就学施設の巡回により、信頼関係の構築を図る。園の課題を明確にしながら指導援助を行うほか、保育実践を見直しスキルアップを図る。
令和2年度	経験年数を見据えた研修会や、保育者の専門性を磨く研修を提供しながら、保育の改善と向上を目指す。
令和3年度	就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取組み体制の構築に努める。

4 令和2年度の具体

目的

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知及び教育・保育アドバイザーによる園研修の支援、保育士に対する研修を実施する。

園と教育・保育アドバイザーの信頼関係の構築に重点を置きながら、教育・保育アドバイザーの活用状況を評価・分析し、以降の教育・保育アドバイザーの効果的な活用方法について検討を重ねる。

また、当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

実施内容及び実施状況 <成果○と今後の課題●と◇改善の方策>

- (1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
- 部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）
- ・教育委員会と子育て推進課との連携体制の構築
 - ・教育委員学校訪問に学区内保育施設の園長も同行できるように調整を図る
- ① 教育委員会学校訪問に同行する。
- | | | |
|------------|--------|-------------------|
| R2.7月2日（木） | 西明寺小学校 | 教育委員・副園長2名・アドバイザー |
| | 桧木内小学校 | 教育委員・副園長2名・アドバイザー |
| R2.7月3日（金） | 神代小学校 | 教育委員・副園長1名 |
| R2.7月8日（水） | 白岩小学校 | 教育委員・園長1名 |
| | 角館小学校 | 教育委員・園長3名 |
- <園長からの感想>
- ・全学年の授業参観ができ、子ども達の成長を感じることができた。また、時代の流れで変わってきている授業内容にふれることができ、小学校への円滑な接続を考えさせられる有意義な時間になった。
- 昨年は、アドバイザーのみの同行であったが、コロナ渦の状況にも関わらず、小学校区の園長も一緒に同行できたことは、大きな成果であった。担当の教育委員会から小学校へ、アドバイザー及び認定こども園・保育園長の同行と、資料の準備、当日の対応等について依頼してくれたことにより、園長達の参加がよりスムーズにできたと思われる。
- 学校訪問には、認定こども園訪問も含まれていたがコロナ感染症拡大防止対策として、今回は中止となり相互の参観ができず残念であった。
- ◇訪問の中で教育委員から小学校への指導や感想を述べる時間があるが、園と小学校の連携を考えた時に園にも伝えていくことで、より一層の理解に結び付いていくと思われる。
- どのように取り入れていくかは部局間でも大きな課題になると思われる。
- 市全体で理解を深めていく体制を考えたい。
- ◇幼小の連携の持ち方や考え方に、隣接する園と小学校で温度差が感じられる学区もある。
- 幼児教育と小学校教育の接続を図るためにも、研修会を通して発達や学びが連続していくことを共有できる機会を工夫していきたい。
- ・幼小接続の連携体制強化のため、教育委員会との連携を一層図っていく。
- (2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
- 教育・保育アドバイザーによる園の支援（園内研修、保育実践）
- ・定期的な訪問を計画し、園のニーズや保育者一人一人の課題を明確にすることで、要望に沿った支援を継続実施
 - ・園内研修の進め方や取り組みの課題等、研修へのプロセスに関わり園内研修の充実を図る支援の実施
 - ・指導主事等の連携体制を継続させ、保育実践の一層の発展を図る

◇令和2年度アドバイザーによる巡回訪問実績（仙北市）

⑥訪問実績 計17施設／全17施設 282回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園:公立 3園(98回) ・幼保連携型認定こども園:公立 1園 私立 4園(166回) ・その他の施設:(事業所内保育施設2か所(0回)、家庭的保育施設1か所(2回)) ・小学校:6校(16回)
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援(保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画)(目標のうち、8園 (40回)) ・公開保育支援(指導・助言、公開保育研究会の運営・準備)(目標のうち、8園 (21回)) ・個別相談(保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等)(目標のうち、8園 (98回)) ・状況把握(保育の状況観察、園長等への聞き取り調査) (目標のうち、8園 (62回)) ・周知活動(広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明)(目標のうち、11園 (49回)) ・県と同行(指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化)(目標のうち、8園 (7回)) ・幼小接続(幼小接続に関する調査及び事業等) (目標のうち、6校 (26回))
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各園月1回以上訪問指導し、継続した支援を通し保育の質の向上に努める。(201回) ・周知活動では、アドバイザーの活用法の例示をしながら、アドバイザーの活用範囲を広げている。 ・園の実態把握に努め、保育者の課題を見出しながら、園内研修へのプロセスに係ることで、研修の充実を図る。

①周知説明のため、アドバイザーの役割、仙北市の研修計画、指導主事訪問の日程等を紙面に記載し各園に配布し様々な場面でアドバイザーの活用方法を周知する。

○アドバイザーの役割等を訪問時に説明したり、紙面で示したりすることで、昨年度より園内研修の事前の相談、指導案を通した保育の振り返り等の活用が多くなったと思われる。

また、アドバイザーは、個別に相談したり、悩みを聞いてくれたりする存在であるという認識も少しずつ広がっている。

○個別相談を受けたことに対しては、訪問時に、より丁寧に接することを心がけている。その後の確認をしたり、声をかけたりすることで保育者自身が前向きに取り組む姿勢につながっている。

●アドバイザーに個別に相談できるとわかっていても、保育の実践の悩みや人間関係に関すること等では、どのタイミングでアドバイザーに声をかけたらいいのか、連絡することが難しいと感じている保育者や保育補助の立場の人もいることを実感した。

●保育者が個別に対応した時に、悩みや課題も違うので、いろいろな保育者に対して継続できる支援の方法が難しいと感じる時がある。

◇個別の悩みを聞いてほしいという時のアドバイザーへの連絡の仕方等、考慮していく必要があると感じる。

② 園内研修：今年度の取り組みとして、園内研修のプロセスに関わることで、保育者の意識を向上させていくことを目標のひとつにしている。

○園内研修の持ち方や進め方について、どのようにしたらいいのか研修に取り組む意識が高まっている。そのことから、アドバイザーも当日だけの参加でなく、事前の進め方や方法について話し合いの場に参加できることが多くなった。また、研修後に進め方の振り返りを聞くことができ、次の研修へつながるような手立てが考えられている。

●園内研修は各園とも保育者の年齢や経験に捉われず、いろいろな意見を出し合える体制を大事にしている。そのため、保育者達からの意見がたくさん出たことを良しとする園が多い。エピソード記録や子どもの姿を語る話し合いが、園の重点課題や研究に結び付いた全体のものとして捉えられていない面が見える。

●園内研修で課題を探り、課題解決に向けた話し合いというより、次の日の活動や環境の構成に

話が進みがちである。保育の中での子どもの姿の読み取りから、今、育ちつつある姿、何を経験しているか等、保育者の読み取りが課題にもなる。

◇研修の方法の紹介、保育者の演習の仕方等いろいろな方法の情報提供をする中で、何を視点到話し合うかを明確にするような助言を心がけていく。

◇同じ方法で進めることに疑問を持たずにいる保育者も多く、どんなことを視点到話し合うということ意識させながら、いろいろな方法での研修も検討できるようにしていく。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

- ・園内研修の充実と保育者のキャリアステージに応じた市独自の研修を実施
- ・保育補助研修、新規採用研修、ミドル職員研修、ファシリテーター研修等を新たに実施

9月17日(木) 新規採用保育者研修会(参加者7名)

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・アンケートで書いた「自信をもてないことについて」答えていただけて本当に嬉しかった。自信がないから「勉強する」「子どもをよく見る」「保護者の話をよく聞く」ずっと心に留め精進していきたいと思う。
- ・(日々勉強)という言葉大切にしていかなければならないと感じる講話であった。子どもにとって保育者とはどんな存在か問われた時、ドキッとした。最近の自分は生活の流れを考えるのに必死で、子ども達一人一人を見ていたのか考えさせられた。子どもは「愛されることで変わる」という言葉を忘れずに、子どもを見る視点を考えて関わっていききたいと思った。

10月6日(火) 実技研修会「心も体も笑いましょう！」(参加者20名)

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

<参加者の感想>

- ・特別な準備がなくても、すぐ実践できる遊びをたくさん学ぶことができた。楽しく笑いながら体を動かす中で様々な体の動きを経験できることを学んだ。
- いろいろな工夫をして、子ども達と楽しく保育を進めていきたいと思った。



10月7日(水) 保護者支援・子育て支援の推進(参加者24名)

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏

目的 保護者等の関わり方等についての知識・技能を高め子育て支援に等に反映することができる。

<参加者の感想>

- ・子育てをほめるとは、保護者の生き方をほめているのと同じこと、「子どもをほめる」=「子育てをほめる」という言葉が印象に残った。子どもや保護者の良い所を見つけ、一緒に成長を喜び合い自分自身もスキルを高めていきたい。
- ・蛭田先生が話してくださったエピソードに今、自分が悩んでいることと重なることがあり、保護者を大切に思う気持ち、あきらめない気持ちを持って丁寧に対応していきたいと思った。



○仙北市では、初の試みで令和2年度の研修をキャリアアップ研修に申請することができた。コロナ関連でほとんどの研修が中止されていたことから、キャリアアップ研修を仙北市内で受けることができるという期待が高まった。

○昨年の研修会のアンケートから、保育者が希望する研修を念頭に置き計画したが、キャリアアップ研修に申請したことで、なかなか受講できない実技研修や保護者支援等の研修が好評であった。また、研修前に受講者から悩みや課題を事前に提出してもらい講師の資料に反映してもらった。

たことで、研修がより具体的になったと思われる。

- 研修を行うために、コロナウイルス感染症拡大防止のために消毒、換気、ソーシャルデスタンス等の注意を払いながら進めているが、受講者の中には不安であるという少数意見もあり、このコロナ禍の中での研修開催を考慮する必要性を感じる。

10月13日（火）ファシリテーター研修会（参加者8名）

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・神代こども園公開研究協議会に向かって、ファシリテーター研修会の開催に感謝している。視点に沿った進め方が大事であり、参加者の話を引き出す大切さや、記録のまとめ方を学ぶことができ、とても有意義だった。研修に向かって進行・記録の役割分担で自分達なりにがんばっていききたい。
- 講師からの資料提供が研修を進める上で大きな強みとなり、意欲的に向かおうとする意識が高まった。

10月22日（木）副園長等研修会（参加者13名）

「副園長等の役割について」～よりよい園の運営をめざして～

講師 仙北市子育て推進課 特別支援相談員 相澤 克彦 氏

<参加者の感想>

- ・校長、教頭、教務の経験からの講話に気づかされること、勉強になったこと、共感したことがたくさんあった。講師の「すべてが勉強になった」という言葉が響いた。色々なことには必ず意味があり、今後の自分につながる大切な経験であると確信することができた。自分も今、勉強させてもらっていることに感謝し、前向きに取り組んでいきたい。
- ・副園長としての役割を具体的に学ぶとともに、子ども・保護者・職員・全てのつながりにおいて信頼関係の構築がいかに重要であるかを痛感させられた研修会であった。

11月25日（水）保育補助研修会（参加者19名）

「子どものよりよい生活のために」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・講話が心に響き、子ども達への自分の対応に反省した。「ダメ」という言葉が一番に出て「なぜ、ダメなのか」ダメな事を気づかせる言葉かけをする大切さを知った。未来ある子ども達へ自分の思いだけでなく、一人一人の気持ちや行動を理解して受け止めるための勉強を日々していかなければならないと思った。
- ・補助のための研修会はほとんどなく、今回の研修で改めて補助の役割を学ぶことができた。園内研修に参加する際も以前より、言葉の意味が理解できるのではと感じた。
- ・子どもの人数が少なくなり、補助の業務もその年で変わることがある。補助の仕方に保育者との関係に悩むこともあるが、保育はチームワークで行うことを心がけてがんばっていききたい。

12月 1日（火）保育補助研修会（参加者13名）

「子どものよりよい生活のために」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・普段わかっているようで、今更聞けない仕組みや内容などわかりやすい事例とともに保育の場面に照らし合わせながら聞くことができた。「○○ちゃんのこと大好きだけど、△△するのは嫌だな」というフレーズを明日から想いを込めて伝えていけたらと思った。流れていくような日々の保育を改めて見直す良い機会となった。
- ・今回の研修で一番印象に残ったのが、子どもへの援助の仕方である。陥りやすい援助の仕方「必要以上のサポート」でその子と行動を共にしてしまう。目を離さないようにと思うあまり行き過ぎた援助をしていないか、その子の見えている行動だけで決めつけ

ていないか自分の援助の仕方を振り返る良い機会になった。

- 保育補助の研修会を初めて開催できたことで、多様な考え方や子どもの理解にふれ、保育補助としての役割や考え方を深めることができたように思う。
- ◇保育補助としての困り感や悩みになかなかふれることができずにいたが、チーム保育を考えるうえで、保育補助の課題を明確にしなが研修開催を工夫していく必要性を感じる。

1月19日（火）ファシリテーター研修会③

「組織的・計画的な研究推進に向けて」

～研究計画の作成と進め方について～

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・今年度園内研修のリーダーになり、研修計画を作成する際、どのように作成すれば良いか悩んだが、今回の研修を受講して研修計画に盛り込む内容を詳しく学ぶことができた。来年度、研修計画を立てる時にポイントを押さえながら作成したい。
- ・研究を続けていく必要性を感じた。計画作成を難しく考えていたが具体的な計画があることで、迷った時いつでも立ち返って確認し、また向かっていけるのだと思った。

中止した研修会

9月23日（水）ファシリテーター研修会①

9月25日（金）ファシリテーター研修会②

- ファシリテーター研修会の開催を望む声が多かったので、1回でも開催できたことは保育者にとって有意義な研修になったと思う。話し合いのポイントを絞ることや研修の組み立て方が重要とわかっている、どのように進めていくべきか、悩む声が多かった。講師の資料に対して、園の計画を実際に照らし合わせて、読み解いていくことで不足していた部分が見えたり、重要なことと捉えていなかった部分が見えたりしたことから、研修の進め方の大事なことを学ぶことができたという感想を聞くことができた。
- 園内研修を進めることに負担を感じている保育者もいたが、講話を聞いていろいろな方法で実践してみたい、また来年度も研修委員として計画を考えていきたいという保育者もあり、前向きな姿勢が感じられた。
- ◇園では保育者の研修参加を計画的に立てているが、保育者にとっては、やらされ感を持つことも否めない。保育者自身の意欲につながっていくような研修を企画していくように努めたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・小学校との接続課題解決に向けた合同研修会の開催
- ・幼小連携に関する研修会、教職員の体験事業の実施を支援
(10月の神代こども園での公開保育研究会と合同研修会を同時開催)

10月16日（金）幼保連携型認定こども園 神代こども園公開研究協議会

(参加者 小学校7名、園・教育関係者48名)

「乳幼児期の教育・保育から小学校への円滑な接続に向けて」

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・子どもの興味・関心に想いを寄せて保育をすることの大切さはもちろんのこと、各年齢の発達段階を踏まえた上で専門性をもって保育にあたるのが教育につながることを実感した。
- ・指導計画は遊び始める姿、試行錯誤、成功やトラブルの過程を踏まえることでより明確な環境の構成や援助につながる、パワーバランスや遊びのボリューム感も考慮すべきということを学んだ。



KJ法での話し合い

- ・小学校に配慮してほしいことという講話から、園での学びが小学校で生かされていることを改めて実感し、しっかり発達に合わせて関わっていかねばと、身が引き締まる思いがした。グループ協議の中で、小学校の先生達から、意見を聞くことができとても参考になった。



<小学校：参加者の声>

- ・小学校としては、スタートカリキュラムにつながる子どもの具体的な姿を見取ることができたことが成果だった。この後も機会をつくって、参観を通して実質的なものにしていけたらと思う。
- ・園も小学校も中学校も目指すところは同じだということを改めて実感した。遊びを通して子ども達は様々な能力を身につけているし、その能力は小・中の学習の基礎となる力だと思う。このような力をつけて小学校に入学してきているということを小学校の教員も共通理解しておくことがいかに大事ということを実感した。

- 公開研究協議会に向かう中で、公開園では、日々実践したことを改めて職員間で振り返りをする等、中間評価ができ保育に取り組む気持ちや研究会に向かう意識が高まった。
- 保育参観、協議を通して、0歳児からの子どもの学びの連続性について、改めて考える機会になったと同時に共通理解をもつことができた。
- 園・小学校の接続は大事なことで双方で思っているが、小学校の勤務形態が異なるためか午後の協議まではなかなか参加できずにいるので研修の時期や学校との研究時間の確保も課題と捉える。
- ◇子どもの理解や遊びの内容という視点で保育を参観し、語るができる保育者の育成とともに自分の保育をどのように振り返ることが大事なことであるかを意識づけるようなアドバイスに努めたい。
- ◇クラスを担任している先生達の参加がもっと増え、意見交換ができれば有意義な研修になると思われる。研修の時期や学校との研修時間の確保も課題と捉え改善策に努めたい。

- ・西明寺小学校授業参観・午後振り返り 令和2年7月27日（月）・7月28日（火）
（にこにこども園5歳児担任・アドバイザー参加）
- ・角館小学校、角館地区こども園、保育園連絡協議会 令和2年8月26日（水）
（角館小学校職員、角館こども園、中川保育園、アドバイザー参加）
- ・西明寺小学校授業研究協議会（1年国語）令和2年10月1日（木）
（にこにこども園5歳児担任・アドバイザー参加）

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加し、専門的な知識を蓄積
- ・県所管研修で得た情報や資料を使い、園や保育者の支援に活用
- ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーによる育成支援の活用、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有により専門性の向上を図った

○認定こども園、要請訪問に同行し、保育の振り返りの仕方や要点を押さえた指導助言を学ぶことができた。特に保育の振り返りについては、「～できた」という結果ではなく、子どもの育ち、自分の関わりのポイントを学ぶことができ、保育者が自分の保育を指導計画と合わせながら考えようとする意識が高くなっている。継続して支援をしていきたい。

- ・令和2年11月20日（金）仙北市のアドバイザーに学ぶ研修会
はなさき仙北 幼保連携型にこにこども園

○仙北市の課題を意識しながら、アドバイザーの業務に携わっているが瞬時の判断に悩むことや、アドバイスの仕方に悩むことがある。自分の関わりを実際にみてもらい、助言をしてもら

<p>うことで、別の視点から考えることができたり、情報を共有することができたり、アドバイザーの役割を意識できることは、有意義な時間を感じる。</p> <p>・令和2年12月3日（木） 横手市のアドバイザーに学ぶ研修会 社会福祉法人山崎福祉会 横手幼稚園</p> <p>○アドバイザーのいろいろなやり方を参観することで、自分の振り返りができることが大きな学びにつながることに実感できる。</p> <p>・他市アドバイザーとの相互研修 令和2年12月21日（月）横手市保育研修会 「幼小の接続を見通した子どもの育ち・学びの見取りについて ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした保育実践のポイント～ 講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏</p> <p>○他市で行う研修に参加することで、各園に情報を提供できる良さがある。 また、他市で捉えている課題を学ぶことが当市の課題を考える手立てに有効となっている。</p>

5 令和3年度の事業の構想

<p>目的</p> <p>令和2年度に引き続き、県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知及び教育・保育アドバイザーによる園訪問を継続して実施する。</p> <p>日々の保育実践が園内研修にも反映され、子ども理解、内面の読み取り等、保育者の質の向上へつながることを意識した園内研修の進め方を悩む園も多い。園の育てたい子どもにせまる園内研修の進め方や、職員の共通理解を図るための取り組みにアドバイザーが入り、いろいろな方法を情報提供しながら助言に努める。</p> <p>市で開催する研修会をキャリアアップ研修に申請したことや、身近な場所で研修会に参加できるということで、保育者自身が研修に対して、学びたいと意欲的になってきている。保育者のニーズに応じながら、キャリアステージごとの研修を検討し、保育の資質向上に向けて研修を企画、開催することに努める。</p> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにしながら、子どもの育ちと学びの相互理解の取り組みを図り、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進させていく。</p>
<p>実施内容</p> <p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校接続に関する体制の構築を教育委員会と図る ・昨年に引き続き学区内施設訪問に、園長等も同行できるように調整を図る <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各園の課題を明確にし、課題解決に向けての園訪問を継続する ・保育実践の見直し（指導計画等）、保育参観からの保育の振り返りの指導・助言を行う ・定期的な園訪問を通して、園内研修を支援する ・新規採用保育者、保育補助との個別面談・支援の構築を図る <p>(3) 職員の専門性の向上のための研修の充実と、地域で学び合う体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージごとの研修確保や、保育者のニーズに応じた研修に努める ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修（会議）を実施する <p>(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修（取組）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加して、課題になることを一緒に考えていく ・幼小連携に関する研修会（公開研究会を開催） ・幼児教育に関する専門性の向上を図るとともに、子育て支援、家庭教育の推進を図る <p>(5) 県との連携体制</p>

- ・ 幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会・県の研修への参加
- ・ 指導主事、及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る